

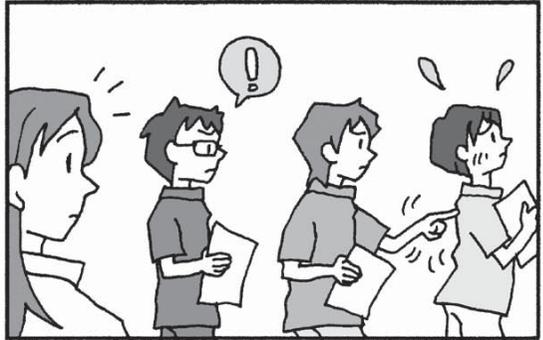
# 1. 小学生

## (1) 健康診断で並んでいるときに、トラブルを起こした子どもへの対応

小学生（1）  
対応がうまくいかなかった場面



小学生（1）  
対応がうまくいった場面



### 【対応がうまくいかなかった場面】

小学校5年生のはじめさんは、健康診断でプリントを持って廊下に並んでいます。前にいるAさんと距離が近いので、はじめさんがAさんの背中を指でつついたら、Aさんは前に詰めました。はじめさんは、さらにくっついてつついていたら、Aさんは固まっています。それを見たBさんが「やめなよ！」と言いました。周りもはじめさんを見て、そうだという表情をしています。

はじめさんはカッとなくなって持っているプリントを握りしめました。養護教諭は医師の横で作業をしていましたが、このままだといつものようにトラブルになると思って、介入しようとしたとたん、はじめさんはBさんにつかみかかりました。

養護教諭がはじめさんの身体を押さえましたが、はじめさんは、「いてー！ ばばあ、はなせ」と言って、養護教諭の足をドンと踏み、手にかじりつきます。

大騒ぎになっているので担任も駆けつけ、はじめさんは押さえ込まれ、保健室に連れていかれたところ、ベッドの布団の中にもぐって寝てしまいました。起きたら、ケロツとしています。

### 【対応がうまくいった場面】

うまく対応できた場面では、養護教諭は、はじめさんが前に並んでいるAさんの背中を指でつついた場面で声かけを始めています。先生は、はじめさんに手を振って「こっちに来てお手伝いをお願い！」と呼びました。はじめさんはAさんをつんとつつきましたが、養護教諭のところに素直に行きます。すかさず養護教諭が「あそこ狭くて落ち着かなかったかな？」とはじめさんに声をかけて、気持ちを受け止めます。はじめさんは「うん」とうなずいて、「お手伝いは？」と聞きました。養護教諭は、「お友達の顔と、この用紙のお名前が合っているか、先生と一緒に、確認してくれる？」と伝えると、はじめさんは、キラキラした表情で友達の顔を見ていました。

### 【解説】

感覚過敏などがあって狭い場所が苦手な子どもがいます。そうした場合は、トラブルを事前に予防するために、環境調整を行うことが大切です。その際に、別室に移動させるのではなく、仲間としての役割を果たして承認欲求を満たすほうが、友達との適切な行動がとりやすくなります。